

北の町老人憩の家がリニューアルしました！

平成24年9月16日(日)午前9時から北の町老人憩の家をリニューアルしました。湯浅伝建地区保存協議会のメンバー15名が集い模様替え作業を行いました。

模様替え内容としては、憩の家の1階の壁にレールを取り付けて、湯浅の歴史が見て取れる年表や絵図、古写真を展示しました。10月18日は湯浅祭りが開催されますので、今回は祭りに関する古写真の展示を行っています。

是非一度みなさんも見に来てください！



【作業の様子】



【湯浅祭りの古写真】

『町民歴史講座』開催のお知らせ

演題：「湯浅町内の神社と祭礼について学ぶ」

講師：湯浅町文化財保護審議委員会委員長 戎 和男 氏

日時：平成24年10月22日(月) 午後7時30分～午後9時00分

場所：役場第2庁舎2階多目的ホール

講座については10/24(水)・26(金)・31(水)にもそれぞれ別の内容で行います。

湯浅祭りに関する古い写真や史料を探しています！

お持ちの方はご連絡ください。コピーをとらせていただきます。

■連絡先：産業観光課伝建推進室 前田・中尾 64-1128(直通)

湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思ひます。ご意見・ご要望などございましたら、保存協議会委員まで連絡をお願いします。

編集委員
楠山 吉雄
都築 豊
半邊 宗五
妻木 禎子
齋藤 春太郎(特別委員)

まちなみ瓦版

- 平成24年10月1日
- 第13号
- 発行：湯浅伝建地区保存協議会
- 発行責任者：木下 智之

有田の祭りのラストを飾る湯浅祭り！

10月18日は湯浅の氏神である顯國神社で恒例の秋祭りが行われます。現代のお祭りは、信仰だけでなく誰もが楽しめるイベントですが、元来は神様に豊作や豊漁を祈願し、感謝を捧げる神事として始まりました。それでは、顯國神社の秋祭り（通称湯浅祭り）で行われていたかつての風習とその歴史をご紹介します。



懐かしの顯國神社



中町組馬：阿瀬誠一郎氏提供

「大宮さん」と呼ばれる顯國神社の秋祭りはスケールも大きく、有田地方随一といわれていました。かつて秋祭りには、「組馬（町馬ともいう）」と呼ばれる馬が町内各所から出されました。お祭りが近づくと、その年の馬宿に当たった家に武具や馬具、幟など祭礼に使う道具を飾ります。宵宮の日になると馬宿に馬が入り、午後には神社の前の馬場で馬駈が行われました。（後に祭り当日に行われました）

祭りの当日には、鎧兜に身を固め母衣（1）を背負った武者が馬にまたがり、美しく着飾った馬子が手綱で馬の口を取ります。これに可愛らしい矢取（2）が付き従います。午前中は、竹の先に付けた的を馬上から扇の根尻でちょんちょんと突く「的入れ（チョンマともいう）」があり、家々を回ります。午後には神社に集まり、神輿の渡御（3）に加わります。明治24年には、外部からの客馬と合わせて90頭の馬が集まりました。

有田地方の祭礼に欠かせない食文化として「なれ寿司」があります。なれ寿司は寿司の最も古い形であり、室町から食品の保存性を高めるために作られてきました。今では酢を使って作る「早寿司」が主流になり、塩だけを使うなれ寿司を作る家庭が少なくなっていますが、昔は自家製のなれ寿司を近所に振舞ったり、親戚で食卓を囲んで食べたりする習慣があったほど身近なものでした。なれ寿司の食文化は祭りと共にこれからも伝えていきたい伝統文化です。

- 1 母衣...竹で編んだカゴのようなものに袋状の布をかぶせたもので、最前線で戦う武士が背負います。目立つことで自分の居場所を味方に知らせる役割と、背後から飛んでくる味方の矢を避ける役割があります。
- 2 矢取...子どもたちが戦国武将などに扮します。北町は弁慶と牛若丸、北浜町は太閤秀吉と加藤清正、北中町は楠木正成と正行、北鍛冶町は加藤清正など、町々によって様々でした。
- 3 渡御...お渡りともいいます。神様を神輿に寄せ、目的地である御旅所まで決められた順路で町内を行進します。また、御旅所から神社までの帰りをお戻りといひます。

～組馬(町馬)の歴史～

起源は田中九郎助！！

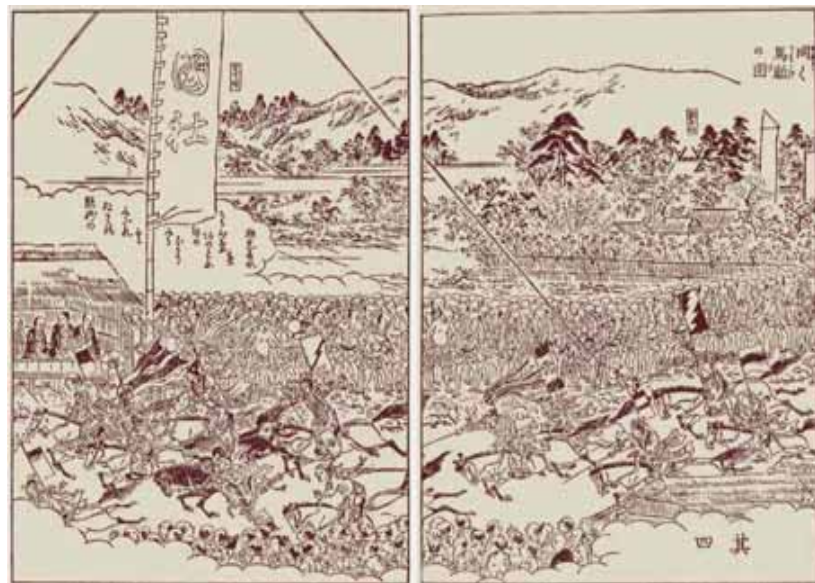
田中九郎助（～1651）という人が、神社の前に馬を集めて流鎗馬をしたのが、顯國神社の馬寄せの始めであると伝えられています。九郎助の先祖は豪勇の武士で、曾祖父田中掃部精董（～1573）、曾父の田中掃部太郎（～1585）は、いずれも武功をあげ、最後は戦死しています。九郎助の父である田中孫四郎は、その父である太郎の死後3歳のときに母とともに湯浅に逃れ、縁のある仙光寺の世話になりました。



紀伊国名所図会：
湯浅町々より駈馬を出す図

しかし、天正の兵火によって仙光寺は焼失し、一般の民家に移住しています。その曾父、曾祖父の高名によって九郎助の居宅があった仙光寺周辺を九郎助町というようになったと言われています。現在でも秋祭りには「九郎助」の名で参加しています。

（南紀湯浅誌 参考）



紀伊国名所図会：馬駈の図

歴史のある組馬ですが、戦後になってからしだいに数が少なくなりましたが、祭りの伝統を復活させるため、平成21年から北浜町が組馬を奉納しています。

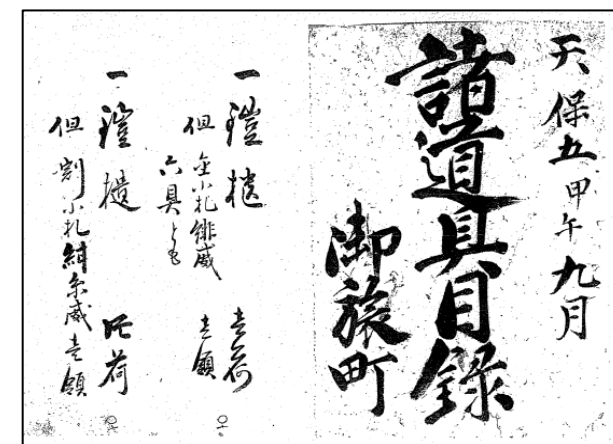


平成22年 北浜町：組馬の様子

～箱組と祭りの記録～

町内から出す組馬の各組を箱組といいました。組ごとに箱親があり、箱組の管理にあたりました。毎年の馬宿当番を定めることも箱親の勤めでした。

北鍛冶町の箱組（御旅町）には、秋祭りのしきたりが書いてある「流鎗馬仲間定」、祭り道具を管理するための「諸道具目録」、祭りの寄付や買い物などのお金の管理が記してある「町馬勘定帳」の3種類の箱組帳が今も大切に保管されています。



天保5年(1834) 北鍛冶町：諸道具目録

顯國神社の三面獅子を知ろう

顯國神社の三面獅子は、暴れ狂う魔物である獅子をオニとワニが退治するもので、五穀豊穡、商売繁盛、無病息災の願いを込めて奉納されます。オニは鼻が高く、ワニには牙があります。獅子は二人立ちで、木を削り出して作られた獅子頭は約10キログラムもの重さがあります。以前使用していた獅子頭には享保11年（1726）の年号が記され、



昭和5年頃の三面獅子：池上安子氏提供

嘉永4年（1851）の「紀伊国名所図会」にその姿が描かれていることから、古くから神事として執り行われていたと考えられます。かつては、北王城（現在の北道とその周辺）と南王城（同じく南栄、本町、西南道、東南道）の青年達が年交代で三面獅子を務めていましたが、昭和53年に「顯國神社三面保存会」が発足され、修練を積んだ若者たちにより今日まで受け継がれています。

平成21年3月17日、「信仰や年中行事に関する民俗芸能で、県民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」と評価され、県の無形民俗文化財に指定されました。



平成22年 秋祭りより